

# 日本毒性学会

## 第1回医薬品毒性機序研究会

**開催日** 2019年1月10日(木)9:55 ~ 17:50  
2019年1月11日(金)9:30 ~ 16:15

**会場** 名古屋大学 東山キャンパス 野依記念学術交流館  
〒464-8602 名古屋市千種区不老町

**実行委員長** 横井 毅 (名古屋大学大学院医学系研究科)

**研究会事務局** 名古屋大学大学院医学系研究科  
統合医薬学領域トキシコゲノミクス研究室 織田 進吾  
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65  
TEL : 052-744-2110  
E-mail : dtm1@med.nagoya-u.ac.jp  
URL : <http://www.senkyo.co.jp/iyakudokuken/>

# 参加者へのご案内とお願い

## 1. 受付・総合案内

---

場所：野依記念学術交流館 1F ロビー

日時：2019年1月10日（木）9:00～17:50

2019年1月11日（金）8:30～14:00

## 2. 参加登録費

---

参加登録費：事前登録 ¥6,000（一般）、¥3,000（学生）（税込み）

当日登録 ¥7,000（一般）、¥3,000（学生）（税込み）

- ・当日参加のお申込をされる方は必ず受付にお立ち寄りください。
- ・事前参加登録および参加費振込が完了されている方には当日、プログラム要旨集および参加証兼領収書（ネームカード）をお渡しいたしますので、必ず受付にお立ち寄りください。
- ・事前参加登録費のご入金がお済みでない方は、受付で参加費をお支払いください。

## 3. クローク

---

- ・1Fのポスター会場隣に設けています。なお、貴重品、傘はお預かりできませんので、予めご了承ください。

## 4. 全員懇親会

---

場所：野依記念学術交流館 1F ポスター会場内

日時：2019年1月10日（木）17:50～19:50

## 5. 表彰

---

- ・若手優秀発表賞を設けました。医薬品毒性機序に関する優れた研究発表を行い、今後の発展が期待出来る研究者（個人）に授与いたします。原則として2名を選考して、賞状および副賞を授与いたします。授賞式は研究会の終了時に行います。

## 6. 休憩コーナー

---

- ・ポスター会場に休憩コーナーを設けておりますので、ご利用ください。

## 7. 企業展示

---

- ・1Fポスター会場にて企業展示を行っております。お立ち寄りください。

## 8. お願い

---

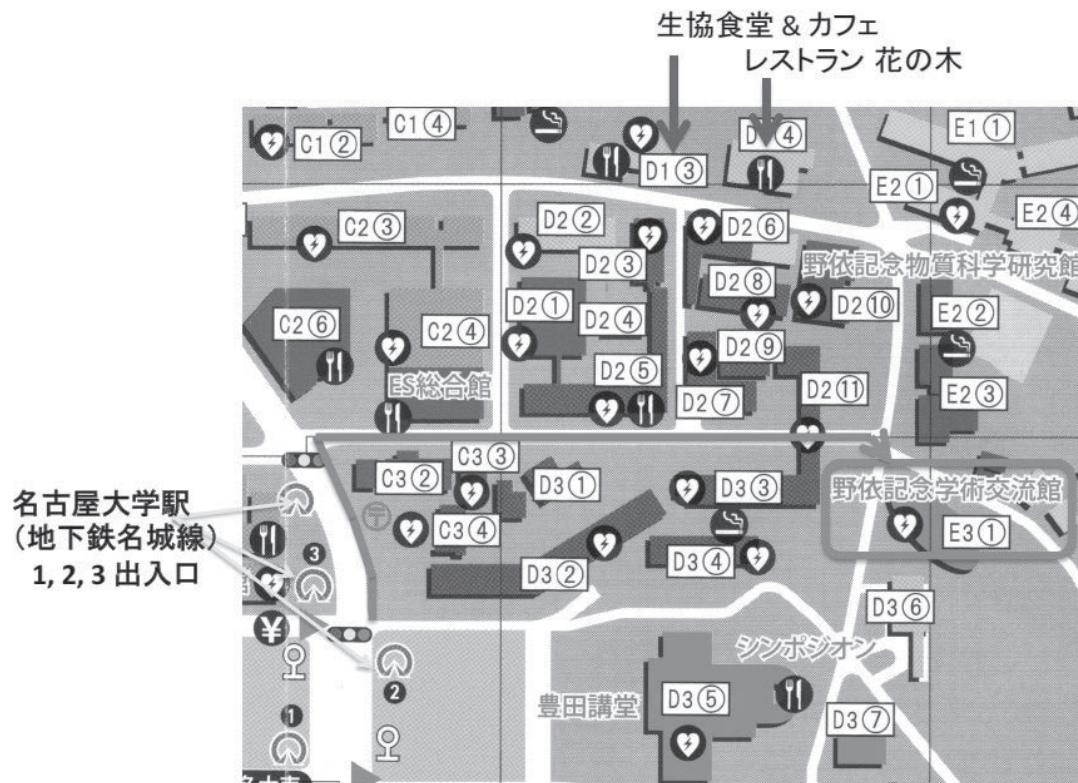
- ・講演およびポスターの写真・ビデオ撮影・録音並びに講演内容の無断引用などは一切ご遠慮ください。
- ・会場内では携帯電話等のご使用はご遠慮ください。また、電源をお切りになるかマナーモードに設定してくださるようお願いいたします。
- ・会期中、会場および懇親会会場では、必ず参加証をご着用ください。
- ・2Fの講演会場での飲食は禁止となっています。休憩後の飲み物の持ち込みはお控えください。
- ・カジュアルスタイル（ノーネクタイ等）でご参加ください。
- ・会場およびその周辺はすべて禁煙です。
- ・会場内での呼び出しは原則としていたしません。
- ・お気付きの点は、受付までお申し付けください。

## 会場へのアクセス

名古屋大学 東山キャンパス 野依記念学術交流館

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

地下鉄名城線 名古屋大学駅 下車 徒歩 5 分



郵便局を通過し、横断歩道まできたら、右折して直進してください。



野依記念学術交流館

# シンポジウム発表の方へ

## 1. 発表に関して

---

- ・ 口頭発表には液晶プロジェクターを使用します（スライドやOHPは使用できません）。プロジェクターは、D-Sub15ピン接続です。
- ・ シンポジウムはすべて講演25分、質疑応答5分です。
- ・ 講演時間終了1分前に予鈴によってお知らせします。発表時間を厳守していただきますようお願いいたします。
- ・ ご発表の際、パソコンの操作は発表者ご自身で行ってください。
- ・ 会場には発表用にノートパソコン（OS: macOS Mojave）が配置されています。
- ・ Windowsを使用される場合は、ご自身のパソコンをお願いします。コネクタが必要な場合には、そのコネクタの準備もご自身をお願いいたします。
- ・ Macの場合も、ご自身のパソコンでも発表いただけます。
- ・ 各シンポジウム開始前に演台下のデスクのパソコンにデータをコピーで受付、または、ご自身のパソコンでスタンバイをお願いします。

## 2. 発表データ作成に関して

---

- ・ 発表データはPowerPoint（Macintosh版）のバージョン2003～2016で作成をいただくことを推奨します。
- ・ 会場設置のパソコン使用環境は、OS: macOS Mojave、ソフトウェア: PowerPoint 2016です。
- ・ Windowsで発表データを作成される方は、事前にMacintoshでの動作確認をお願いします。
- ・ プロジェクターは「4:3」の比率となりますので、スライドは「4:3」で作成してください。
- ・ 発表データ内に動画がある場合は、ご自身のパソコンでのご発表をお勧めします。
- ・ 音声の使用、Power Pointのノート機能の表示はできませんので、ご注意ください。
- ・ フォントは、MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝、Arial、Century、Times New Roman等の標準フォントを使用してください。
- ・ コピーしたデータは、研究会終了後、主催者側で責任を持って消去いたします。

# ポスター発表の方へ

## 1. 作成

---

- ・ポスター掲示板は、縦160 cm、横110 cmです。日本語または英語にて作成をお願いします。ポスター番号は準備してあります。左上（15 cm x 15 cm）を番号用に空けてください。

## 2. 掲示

---

- ・1Fポスター会場にて1月10日（木）昼食時間開始時頃までに掲示をお願いします。ポスターの受付は行いません。プログラムの番号をご確認の上、配布します両面テープを使用して掲示をお願いします。画鋏は使用できません。

## 3. フラッシュトーク

---

- ・1月10日（木）16:05より、2F講演会場にて開始予定です。ポスターの番号順に2分以内で内容をプレゼンテーションにて講演願います。質疑応答はありません。
- ・口演用のプレゼンテーションデータについては、「発表データ作成に関して（シンポジウム発表の方へ）」を参照し、作成してください。Windowsで発表データを作成される方は、事前にMacintoshでの動作確認をお願いします。
- ・発表講演者の皆様は、2019年1月9日（水）午後3時までに、プレゼンテーションデータを第1回医薬品毒性機序研究会事務局まで、E-mailの添付ファイルでお送りください（送付先：dtm1@med.nagoya-u.ac.jp）。枚数に制限はありません。よろしくご協力をお願いいたします。ご不明の点は、事務局宛にご連絡をお願いします。
- ・ご自身のパソコンでのご発表は接続時間の制約上ご遠慮くださいますようお願い申し上げます。ご了承ください。
- ・ご送付いただいたデータは、研究会終了後、主催者側で責任を持って消去いたします。

## 4. ポスター討議

---

- ・フラッシュトーク終了後、1Fポスター会場にて行います。途中から、同会場にて全員懇親会を開催しますので、討議を継続していただけますと幸いです。

## 5. 撤収

---

- ・1月11日（金）昼食時間終了時頃から閉会20分後頃までに撤収をお願いします。

## 日本毒性学会 第1回医薬品毒性機序研究会開催にあたって

実行委員長 横井 毅 (名古屋大学大学院医学系研究科)

第1回医薬品毒性機序研究会を2019年1月10日(木)~11日(金)の二日間、名古屋大学 野依記念学術交流館にて開催いたします。2017年度から日本毒性学会に部会制度が導入され、本部会の設立について理事会で協議され、2018年5月1日付で設置が承認されました。設置につきましては、発起人として賛同いただきました評議員49名の皆様のご支援に厚く御礼申し上げます。私は本部会の部会長並びに第1回研究会の実行委員長のご指名を受け、研究会の準備に取り掛かった次第です。会期は新年早々で行事が少ない時期としました。

近年、日本毒性学会を含め多くの国内外の学会や研究会において、医薬品の安全性への関心が高まっています。その研究範囲は、レギュラトリーサイエンス、各種安全性評価法の開発、安全性試験による毒性の検出、発現機序の解明など、多岐に亘っています。このなかで毒性発現機序の解明は、医薬品の開発にとって必須であり、将来的に新たな試験法の開発、バイオマーカーの設定、ヒトへのトランスレーショナルリサーチ、さらに新薬シーズの発見へと展開されることが期待されます。また、毒性発現機序研究は、毒性研究者のみならず、薬物動態研究者、組織病理研究者、薬理研究者など、多くの領域の研究者の研究対象となっています。そこで、医薬品毒性機序研究部会では、研究者間でグローバルな研究交流のできる環境を作りたいと考え、医薬品毒性機序研究の理解を深化させる情報交換の場として、さらに研究者のレベルアップを目指して研究会を開催いたします。

この度の研究会の内容は、関連領域の研究者の皆様が今関心のある領域について6つのシンポジウムを予定しています。テーマを「薬物代謝・動態と医薬品毒性」とし、関連研究の話題を広く取り上げます。討論や議論をじっくりできる会を目指したいと思います。特に、シンポジストの先生方には、手弁当でご講演をお引き受け下さりましたことに心より感謝申し上げます。また、ご参加の皆様には第1回ということで、至らぬ点が多々あるかと思いますが、ご寛容のほどお願い申し上げます。

今後、毎年専門領域が異なる実行委員長による開催を予定していますので、今後とも「医薬品毒性機序研究会」にご支援ご参加をくださいますようお願いいたします。

# プログラム



# シンポジウムプログラム

2019年1月10日(木)

9:55～10:00

はじめに 実行委員長挨拶

横井 毅 (名古屋大学大学院医学系研究科)

## シンポジウム1：ヒト iPS 細胞を用いた医薬品毒性評価系の展開

座長：水口 裕之 (阪大院薬、医薬健栄研、阪大 MEI セ)

横井 毅 (名古屋大学大学院医学系研究科)

10:00～10:30 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

S1-1 ヒト iPS 細胞を用いた *in vitro* 医薬品毒性予測システム:消化管と血液毒性

松永 民秀 (名古屋市立大学大学院薬学研究科)

10:30～11:00 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

S1-2 ヒト初代培養肝細胞との差別化を目指したヒト iPS 細胞由来肝細胞の開発  
と毒性評価系への応用

水口 裕之 (阪大院薬、医薬健栄研、阪大 MEI セ)

11:00～11:30 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

S1-3 ヒト iPS 細胞由来細胞を用いた *in vitro* 評価系の応用性と今後の展望

篠澤 忠紘 (武田薬品工業株式会社)

\*\*\*\*\* 11:30～12:45 昼食 (各自、75 分) \*\*\*\*\*

シンポジウム2:

## 動物モデルによる医薬品毒性機序研究とヒトへの外挿

座長：香月 康宏 (鳥取大学・染色体工学研究センター)

柿木 基治 (エーザイ株式会社)

12:45～13:15（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S2-1 ヒト肝臓キメラマウスを用いた抗体医薬品の肝毒性機序解析**

仁平 開人（協和発酵キリン株式会社 安全性研究所）

13:15～13:45（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S2-2 ヒト肝細胞キメラマウス(PXB マウス<sup>®</sup>)、およびキメラマウス由来  
新鮮ヒト肝細胞(PXB-cells<sup>®</sup>)の肝毒性予測系としての利用**

立野（向谷）知世（株式会社フェニックスバイオ）

13:45～14:15（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S2-3 人工染色体技術を用いた創薬研究への応用**

香月 康宏（鳥取大学・染色体工学研究センター）

\*\*\*\*\* 14:15～14:35 休憩（20 分）\*\*\*\*\*

**シンポジウム 3: ここまで進化した *in silico* 医薬品毒性予測システム**

座長：頭金 正博（名古屋市立大学大学院薬学研究科）

広瀬 明彦（国立医薬品食品研究所）

14:35～15:05（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S3-1 毒性データベースを用いた *in silico* 安全性予測**

安部 賀央里（名古屋市立大学大学院薬学研究科医薬品安全性評価学分野）

15:05～15:35（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S3-2 薬物動態・毒性予測のための統合解析プラットフォーム**

水口 賢司（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）

15:35～16:05（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S3-3 シミュレーションと AI を組み合わせた ADMET 予測と構造提案への展開**

本間 光貴（理化学研究所 生命機能科学研究センター）

16:05～17:00（発表 2 分、質疑応答なし）

フラッシュトーク（ポスター発表者全員）

進行役：織田 進吾（名古屋大学 大学院医学系研究科）

17:00～17:50 ポスター討議（於：1F ポスター会場）

17:50～ 全員懇親会（於：1F ポスター会場）

## 2019 年 1 月 11 日(金)

### シンポジウム 4：医薬品毒性予測手法の現況と展望

座長：藤本 和則（第一三共株式会社 安全性研究所）

片木 淳（小野薬品工業株式会社 安全性研究所）

9:30～10:00（発表 25 分、質疑応答 5 分）

S4-1 リアルタイム発光測定による細胞機能解析と毒性評価への応用

中島 芳浩（産業技術総合研究所 健康工学研究部門）

10:00～10:30（発表 25 分、質疑応答 5 分）

S4-2 *In vitro* 系を用いたヒトへの外挿性検討と毒性メカニズム解析の事例紹介と  
その課題

藤本 和則（第一三共株式会社 安全性研究所）

10:30～11:00（発表 25 分、質疑応答 5 分）

S4-3 クリニカルホールドを受ける前に前臨床試験すべきこと：

ヒトへの外挿性を検討した事例紹介

福井 英夫（Axcelead Drug Discovery Partners, Inc. 非臨床安全性研究）

\*\*\*\*\* 11:00～11:20 休憩（20 分）\*\*\*\*\*

## シンポジウム 5 : 薬物代謝・動態から医薬品毒性を考える

座長 : 佐能 正剛 (広島大学大学院 医歯薬保健学研究科)

織田 進吾 (名古屋大学大学院 医学系研究科)

11:20~11:50 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

### S5-1 医薬品毒性に対する non-P450 代謝の寄与

深見 達基 (金沢大学医薬保健研究域薬学系)

11:50~12:20 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

### S5-2 薬物性肝障害の発症とミトコンドリア毒性 : 機序の理解とスクリーニング系構築への応用

伊藤 晃成 (千葉大大学院薬学研究院)

12:20~12:50 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

### S5-3 CAR 依存的肝発がんの種差における分子基盤

吉成 浩一 (静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野)

\*\*\*\*\* 12:50~14:00 昼食 (各自、70 分) \*\*\*\*\*

## シンポジウム 6 : 免疫関連因子から医薬品毒性を考える

座長 : 筵田 泰誠 (理化学研究所 生命医科学研究センター)

平塚 真弘 (東北大学大学院 薬学研究科)

14:00~14:30 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

### S6-1 HLA ノックインマウスの作製と医薬品毒性評価への応用の可能性

原田 直幹 (大鵬薬品工業株式会社 研究本部)

14:30~15:00 (発表 25 分、質疑応答 5 分)

### S6-2 HLA トランスジェニックマウスを用いた薬物過敏症のメカニズム研究

青木 重樹 (千葉大大学院薬学研究院)

15:00～15:30（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S6-3 重症薬疹の発症と関連する HLA 型とその発症機序における役割**

中村 亮介（国立医薬品食品衛生研究所 医薬安全科学部）

15:30～16:00（発表 25 分、質疑応答 5 分）

**S6-4 OECD AOP プログラム及び免疫毒性 AOP 開発の現状と将来**

大石 巧（日本免疫毒性学会試験法委員会 AOP 検討小委員会  
株式会社ボゾリサーチセンター 御殿場研究所）

16:00～16:10 優秀発表賞 表彰式

16:10～16:15 おわりに

横井 毅（名古屋大学大学院医学系研究科）

# ポスター発表プログラム

\* : 若手優秀発表賞応募演題

- P-1\* リードアクロスによるラット反復投与毒性のインシリコ予測手法の提案  
○竹下 潤一<sup>1,2</sup>, 橘内 陽子<sup>2</sup>, 佐々木 崇光<sup>2</sup>, 吉成 浩一<sup>2</sup>  
<sup>1</sup> (国研) 産業技術総合研究所 安全科学研究部門  
<sup>2</sup> 静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野
- P-2\* 機械学習法を利用した化学物質誘発性腎毒性の予測  
○落部 達也, 安部 賀央里, 頭金 正博  
名古屋市立大学大学院 薬学研究科 医薬品安全性評価学分野
- P-3 OECD AOP プロジェクト  
○小島 肇  
国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部
- P-4\* 肝発がん物質のラット反復投与による遺伝毒性の有無での肝臓における細胞老化関連代謝分子の発現反応の違い  
○伊藤 優子<sup>1,2</sup>, 中島 康太<sup>1,2</sup>, 増渕 康哲<sup>1,2</sup>, 菊地 聡美<sup>1</sup>, 齋藤 文代<sup>3</sup>, 赤堀 有美<sup>3</sup>, 吉田 敏則<sup>1</sup>, 渋谷 淳<sup>1</sup>  
<sup>1</sup> 東京農工大学 獣医病理学研究室  
<sup>2</sup> 岐阜大学大学院 連合獣医学研究科  
<sup>3</sup> 化学物質評価研究機構
- P-5 Wnt signaling and epithelial-mesenchymal transition pathway network in mesenchymal stem cells and gastric cancer  
○田邊 思帆里<sup>1</sup>, 青柳 一彦<sup>2</sup>, Sabina Quader<sup>3</sup>, 横崎 宏<sup>4</sup>, 佐々木 博己<sup>5</sup>, 広瀬 明彦<sup>1</sup>  
<sup>1</sup> 国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部  
<sup>2</sup> 国立がん研究センター研究所 基盤的臨床開発研究コアセンター 臨床ゲノム解析部門  
<sup>3</sup> 公益財団法人 川崎市産業振興財団 医療イノベーションセンター  
<sup>4</sup> 神戸大学大学院医学研究科 病理学講座・病理学分野  
<sup>5</sup> 国立がん研究センター研究所 基盤的臨床開発研究コアセンター 創薬標的・シーム探索部門
- P-6\* 核内受容体 CAR 活性化による肝発がんプロモーションの分子機序解析  
○志津 怜太, 曾部 圭一郎, 阿部 太紀, 石村 麻衣, 保坂 卓臣, 佐々木 崇光, 吉成 浩一  
静岡県立大学 薬学部 衛生分子毒性学分野

- P-7\* 一過性低酸素は薬物によるミトコンドリア透過性遷移を介した細胞死を惹起する  
○池山 佑豪, 佐藤 智之, 関根 秀一, 荒川 公一, 伊藤 晃成  
千葉大学大学院薬学研究院生物薬剤学研究室
- P-8\* イメージング質量分析を用いたヒト肝細胞キメラマウスにおける薬剤性胆汁うっ滞の評価  
○田村 優香<sup>1</sup>, 佐能 正剛<sup>1</sup>, 菅原 豪<sup>2</sup>, 吉実 康美<sup>2</sup>, 柳 愛美<sup>2</sup>, 石田 雄二<sup>2,3</sup>, 立野 知世<sup>2,3</sup>, 太田 茂<sup>1,4</sup>, 古武 弥一郎<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>広島大学 大学院医歯薬保健学研究所 生体機能分子動態学研究室  
<sup>2</sup>株式会社フェニックスバイオ  
<sup>3</sup>広島大学 肝臓プロジェクト研究センター  
<sup>4</sup>和歌山県立医科大学
- P-9 ラットへの胆汁酸塩の経口投与による薬剤性肝障害の評価  
楊 馥華, ○織田 進吾, 横井 毅  
名古屋大学大学院 医学系研究科 トキシコゲノミクス研究室
- P-10\* キメラ型 HLA 遺伝子導入マウスを用いた高感度な特異体質薬物皮膚毒性評価モデル  
○薄田 健史, 青木 重樹, 伊藤 晃成  
千葉大学大学院 薬学研究院 生物薬剤学研究室
- P-11\* HLA-B\*58:01 を介したオキシプリノールによる特異体質性副作用 *in vitro* 評価系の構築  
○槇野 隆太<sup>1</sup>, 長部 誠<sup>2</sup>, 頭金 正博<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>名古屋市立大学大学院 薬学研究科 医薬品安全性評価学分野  
<sup>2</sup>日本薬科大学 薬学科 衛生薬学分野
- P-12\* 日本人 1070 人の全ゲノム解析で同定された 21 種の Dihydropyrimidine dehydrogenase レアバリエント活性変化  
○菱沼 英史<sup>1, 2, 3</sup>, 成田 瑤子<sup>1</sup>, 齋藤 さかえ<sup>2</sup>, 前川 正充<sup>4</sup>, 赤井 文香<sup>1</sup>, 中西 悠悦<sup>1</sup>, 安田 純<sup>2</sup>, 長崎 正朗<sup>2</sup>, 山本 雅之<sup>2, 3</sup>, 山口 浩明<sup>4</sup>, 眞野 成康<sup>4</sup>, 平澤 典保<sup>1, 3</sup>, 平塚 真弘<sup>1, 2, 3, 4</sup>  
<sup>1</sup>東北大学大学院 薬学研究科 生活習慣病治療薬学分野  
<sup>2</sup>東北大学東北メディカル・メガバンク機構  
<sup>3</sup>東北大学未来型医療創成センター  
<sup>4</sup>東北大学病院薬剤部

**P-13\* レゴラフェニブ誘発性肝障害に関連する CYP2D6 遺伝子の同定**

○福永 航也<sup>1</sup>, 加藤 健<sup>2</sup>, 奥坂 拓志<sup>3</sup>, 吉田 輝彦<sup>4</sup>, 前佛 均<sup>5</sup>,  
蒔田 泰誠<sup>1</sup>

<sup>1</sup>理化学研究所生命医科学研究センター ファーマコゲノミクス研究チーム

<sup>2</sup>国立がん研究センター中央病院 消化器内科

<sup>3</sup>国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科

<sup>4</sup>国立がん研究センター研究所 基盤的臨床開発研究コアセンター

<sup>5</sup>がん研究会 がんプレシジョン医療研究センター リキッドバイオプシー診断  
開発プロジェクト

**P-14\* Lapatinib による T 細胞分化誘導機構の解析**

○宮路 康平<sup>1</sup>, 岡本 秀人<sup>1</sup>, 槇野 隆太<sup>1</sup>, 長部 誠<sup>2</sup>, 頭金 正博<sup>1</sup>

<sup>1</sup>名古屋市立大学大学院 薬学研究科 医薬品安全性評価学分野

<sup>2</sup>日本薬科大学 薬学科 衛生薬学分野

**P-15\* 腎スライス法を用いた Diclofenac、Diclofenac Acyl Glucuronide の腎蓄積、  
及び代謝・毒性評価**

○根立 志帆, 荒川 大, 久保 光, 中西 猛夫, 玉井 郁巳

金沢大学 医薬保健研究域・薬学系 薬物動態学研究室

**P-16\* シトクロム P450 と UDP-グルクロン酸転移酵素の相互作用による双方向の  
機能制御: in vivo における評価とその毒性学的意義**

○宮内 優<sup>1,2</sup>, 永里 萌<sup>2</sup>, 田中 嘉孝<sup>1</sup>, 永田 清<sup>3</sup>, 山添 康<sup>4</sup>, Mackenzie Peter<sup>5</sup>,  
石井 祐次<sup>2</sup>

<sup>1</sup>九州大学大学院 薬学研究院 細胞生物薬学分野

<sup>2</sup>九州大学大学院 薬学研究院 分子衛生薬学分野

<sup>3</sup>東北医科薬科大学 薬学部 環境衛生学教室

<sup>4</sup>東北大学大学院薬学研究科

<sup>5</sup>フリンダース大学 医学部

**P-17\* 薬物代謝酵素発現酵母を用いた医薬品および食品成分の代謝予測と代謝物  
調製法の確立**

○西川 美宇<sup>1</sup>, 増山 優香<sup>2</sup>, 安田 佳織<sup>1</sup>, 濱田 昌弘<sup>1</sup>, 中島 範行<sup>1</sup>,  
榊 利之<sup>1</sup>, 生城 真一<sup>2</sup>

<sup>1</sup>富山県立大学 工学部 医薬品工学科

<sup>2</sup>富山県立大学 工学部 生物工学科

**P-18\* Phytochemical 及びその抽出物を対象とした in vitro 新規肝臓毒性評価の開  
発**

○前田 美里, 田中 康浩, 堀 妃佐子, 古久保 進

サントリー-MONOUZUKURI エキスパート株式会社



**P-19 ネビラピンの反応性代謝物は inflammasome 反応を活性化させるか  
-ネビラピン誘発肝障害発症機序の検討-**

○加藤 隆児<sup>1</sup>, 井尻 好雄<sup>1</sup>, Jack Uetrecht<sup>2</sup>, 林 哲也<sup>1</sup>

<sup>1</sup>大阪薬科大学 循環病態治療学研究室

<sup>2</sup>Faculty of Pharmacy, University of Toronto

**P-20\* Establishment of a novel mouse model of troglitazone-induced liver injury and analysis of its hepatotoxic mechanism**

○Ru Jia<sup>1</sup>, Shingo Oda<sup>1</sup>, Koichi Tsuneyama<sup>2</sup>, Yuya Urano<sup>1</sup>, Tsuyoshi Yokoi<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Department of Drug Safety Sciences, Division of Clinical Pharmacology, Nagoya University Graduate School of Medicine

<sup>2</sup>Department of Pathology and Laboratory Medicine, Institute of Biomedical Sciences, Tokushima University Graduate School

**P-21\* 肝細胞障害、胆汁うっ滞および脂肪肝を病型別に早期発見が可能な血漿  
miRNA バイオマーカー探索研究**

○香川 匠, 白井 勇司, 織田 進吾, 横井 毅

名古屋大学大学院 医学系研究科 統合医薬学領域 トキシコゲノミクス

**P-22 バイオ 3D プリンタで作製したヒト肝臓モデルの構築:ヒト凍結初代肝細胞を  
用いた構造体とスフェロイドの毒性評価比較**

○長尾 映里, 鍛冶山 咲良, 溝口 奈津美, 島村 満, 井出 いずみ

株式会社サイフューズ

**P-23\* バイオ 3D プリンタで作製したヒト肝臓モデルの構築:**

**新鮮ヒト肝細胞(キメラマウス由来ヒト肝細胞)を用いた**

**肝臓構造体の毒性評価**

○鍛冶山 咲良, 長尾 映里, 溝口 奈津美, 島村 満, 岸井 保人,  
井出 いずみ

株式会社サイフューズ